令和7年度 シラバス

 教科・科目
 国語・古典探究
 単位数
 4

 学年・クラス
 2 学年 (必修 ・ 選択)
 担 当 者
 木村 日和

 使用教科書
 『古典探究 古文編』(大修館書店)・『古典探究 漢文編』(大修館書店)

 使用副教材
 『これからの古典文法〔改訂版〕』(尚文出版) 『漢文必携 [五訂版]』(桐原書店)

目 標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり 育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する 理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、 感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる ようにする。
- (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

授業の内容・進め方

授業の内容: 教科書教材をもとに古典に関する基礎知識と読解能力、および探究意欲の向上を図る。

進 め 方:教科書教材の読解を中心に言語活動を展開し、単元目標の言語能力の向上を図る。

適宜、課題や班活動に取り組むが、板書を中心に説明の理解に注力する時間もある。

なお、ノートは手書き以外の方法で取っても良いが、ICT機器の不適切な使用は認めない。

考 査:授業内の言語活動等を通して学習した国語力や古典に関する知識の理解度、読解能力の向上を確認する。 例えば、人物像の読解を中心に単元を実施した場合には、課題本文を通して文章に描き出された古典世界 の人物像について的確に読み取ることができるようになっているかを設問において確認する。

評価規準(観点別達成目標・評価項目)

評価の観点	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
観点別達成目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めている。	したり豊かに想像したりする力 を伸ばし、古典などを通した先	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して主体的に他者や社会に関わろうとしている。
評価の割合	1	1	1

	評価の観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に 取り組む態度
	空期老本/年9回,由眼老本体说二部區檢索体料)			取り組む態度 ^
.am:	定期考査(年2回:中間考査は単元課題等で代替)	0	0	\triangle
評	各単元における提出課題	\circ	0	0
価	単元テスト等のまとめ課題	0	0	\triangle
項	授業中の様子	0	0	
目	長期休業課題	0	0	0

・観点別評価 3つの 観点別に各評価項目の達成率でA・B・Cを決定する。

A: 十分満足できる B: おおむね満足できる C: 努力を要する

・評価・評定 観点別評価から総合的に成績(評価・評定)を決定する。

指導計画及び中単元別評価基準

		火 0中单元別評価		評価規準			
学期	月	単元	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度	
前期	4	漢文の故事や逸話 について学ぶ	を自力回は成 ので かりめず なま を りのである。 で りめず な な な な な な な な な な な な な な な な な な な	めに必要な語句の、量を 増すことを語し、 ・要語のでは、 ・を語きない。 ・を語きない。 ・を語きないい。 ・を語きないい。 ・を語きないい。 ・ででは、 ・でででは、 ・でででは、 ・でででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・でででは、 ・でででは、 ・でででは、 ・ででは、 ・でででは、 ・でででは、 ・でででは、 ・ででは、 ・ででは、 ・でででいる。 ・ででは、 ・でででは、 ・でででは、 ・でででは、 ・ででででは、 ・ででででは、 ・でででででは、 ・ででででは、 ・ででででででは、 ・でででででででででで	・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・古典の作品や文章について、内容や解釈付けながら考えを広げたり深めたりしている。	故事成語の内容自体 や文化的背景にも 生たこと を普段の生活の中にも 生かせるように、粘り 強く読解に取り組もう としている。	
	5	漢詩を鑑賞する	構成された韻文の 訓読と、毛の鑑賞 大の鑑賞 大の鑑賞 大の鑑賞 大通いな情操を ・漢 大ので 大で はれいで はれいで はいで はいで はいで はいで はいで はいで はいで はいで はいで は	・古典に用いられている ・古典に用いられている ・古語に用いる世解し、 を理解し、要なを通し、 ・はいる。といる。 ・はないる。 ・はないる。 ・はないる。 ・はないる。 ・はないる。 ・はないる。 ・はないる。 ・はないない。 ・はないない。 ・はいる。 ・は、 ・はいる。 ・はい。 ・はいる。 ・はいる。 ・はいる。 ・はいる。 ・はいる。 ・はいる。 ・はいる。 ・はいる。 ・はい。 ・はいる。 ・はいる。 ・はいる。 ・はいる。 ・はいる。 ・はい。 ・はいる。 ・はいる。 ・はい。 ・は、 ・は、 ・は、 ・は、 ・は、 ・は、 ・は、 ・は、	とともに、文章の構成 や展開、表現の特色に ついて評価している。	持ち、作者のものの見 方や感じ方について、 十分に読み味わうこと ができるように、粘り 強く読解に取り組もう としている。	
		物語に親しむ(宇治拾遺物語)	の特質を知る。 ・物語作品の読解 を通じて、古典に 関する幅広い知識 と教養を身に付け	・古語解し、 大きな 大き	関連する様な古典の 作品をでする 作品をでする を深めている。 ・古面の を深めている。 ・方面の がでいる。 ・方面の がでいる。 ・方面の がでいる。 ・方面の がなな を変した。 ・方面の がなる がなる。 ・方面の がなる。 ・方面の がなる。 ・方面の がなる。 ・方面の がなる。 ・方面の がなる。 ・方の がなる。 ・方の がなる。 ・方の がなる。 ・方の がなる。 ・方の がなる。 ・方の がなる。 ・方の がなる。 ・方の がなる。 ・方の がなる。 ・方の がなる。 ・方の がなる。 ・方の がなる。 ・方の がなる。 ・方の がなる。 ・方の がなる。 ・方の がなる。 ・方の がなる。 ・った。 ・った。 ・った。 ・った。 ・った。 ・った。 ・った。 ・った	古文と現代とのさまでは、大きな文化の繋場は、大きな文化の繋場場で、大きなでは、大きないの言葉を表すない。大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないが、ないが、大きないが、大きないが、大きないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、ないが、	
	6	物語を読み味わう (今昔物語)	・古文を読むため の基礎的な知識を 確認し、古典作品 の特質を知る。	・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句で、 増すことを通して、 語感を磨き語彙を豊かにしている。	・関心をもった事柄に 関連する様々な古典の 作品や文章などをもと に、自分自身のものの 見方や感じ方、考え方	古文と現代とのさま さまな文化の繋場した 要味を持ち、登場人物 の言動などから多様な 価値観を読み取ること ができるように、粘り 強く読解に取り組もう としている。	

	※同単元の続き	を通じて、古典に 関する幅広い知識 と教養を身に付け	・先人のものの見方や 感じ方、考え方に親し み、自分自身のものの 見方や感じ方、考え方 を豊かにする読書の意 義と効用について理解 を深めている。	多面的・多角的な視点 から評価することを通 じ、我が国の言語文化 について自分の考えを	
	史伝に親しむ (史記)	表現の特徴、時代背景や地理などの幅広い知識とともに物語文の内容を読解する。	・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通し、語感を磨き、語彙を豊かにしている。	・古典の作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を踏まえ、 人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。	・漢文作品の時代背景 や登場人物などに興味 を持ち、各陣営の戦略 や、人物の心情・行動 を理解し、読み味わう ことのできるよう粘り 強く読解に取り組もう
7			・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	関連する様々な古典の 作品や文章などをもと に、自分のものの見方 や感じ方、考え方を深	としている。
			要な文語のきまりや、 訓読のきまりについて 理解を深めている。		
	随筆に親しむ	の基礎的な知識を 確認し、古典作品 の特質を知る。	・古典に用いられている語句の意味や用法を 理解し、古典を読むために必要な語句の量を 増すことを通し、語感	・必要に応じて書き手 の考えや目的,意図を 捉えて内容を解釈する とともに,文章の構成 や展開,表現の特色に	・古典の文章に表れているものの見方や感じ方、考え方をとらえ、 作者の価値観について理解することができる
		じて古代の人々の 豊かな情操に触れ ることで、自身の	を磨き、語彙を豊かに している。 ・先人のものの見方や 感じ方、考え方をもと	ついて評価している。 ・古典作品や文章など に表れているものの見 方や感じ方、考え方を	ように、粘り強く読み 味わおうとしている。
		たり深めたりして いる。	に自身の感性を豊かに する読書の意義と効用 について理解を深めて いる。	踏まえ、人間、社会、 自然などに対する自分 の考えを広げたり深め たりしている。	
8	随筆を読み味わう	の基礎的な知識を 確認し、古典作品 の特質を知る。	・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通り、問題を	の考えや目的, 意図を 捉えて内容を解釈する とともに, 文章の構成 や展開, 表現の特色に	いるものの見方や感じ 方、考え方をとらえ、 作者の価値観について 理解することができる
		じて古代の人々の 豊かな情操に触れ ることで、自身の ものの見方や感じ 方、考え方を広げ	を磨き、語彙を豊かに している。 ・先人のものの見方や 感じ方、考え方をもと に自身の感性を豊かに する読書の意義と効用	ついて評価している。 ・古典作品や文章など に表れているものの見 方や感じ方、考え方を 踏まえ、人間、社会、 自然などに対する自分	ように、粘り強く読み 味わおうとしている。
	Vol	いる。	について理解を深めている。	の考えを広げたり深めたりしている。	
	刊	朝期末考査(甲元ア	ストや単元課題で扱わな	かった範囲を甲心に実施	予 定。)
9	物語を読み解く	・古文を読むための基礎的な知識を確認し、古典作品の特質を知る。	・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を 増立ことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	関連する様々な古典の 作品や文章などをもと に、自分自身のものの 見方や感じ方、考え方	・古文と現代とのさま さまな文化の繋がり、 大文化の繋がり、 でまなさいない。 でき動などから多様な 価値観を読み取るこれ ができるように、 強くで説解に取り組もう としている。

_	1	◇日出ニの体を	かまた ロ の きぬ	#10100E+0	十曲の14日の大幸士	
		※同単元の続き 物語を鑑賞する	を通じて、古典に 関する幅広い知識 と教養を身に付け るともに、読書の 幅を広げる態度を 養う。 ・古文を読むため	・先人のものの見方や 感じ方、考え方に親し み、自分自身のものの 見方や感じ方、考え方 を豊かにする読書の意 義と効用について理解 を深めている。 ・古典に用いられてい	多面的・多角的な視点 から評価することを通 じ、我が国の言語文化 について自分の考えを 広げたり深めたりして いる。 ・関心をもった事柄に	・古文と現代とのさま
			確認し、古典作品の特質を知る。 ・物語作品の読解 を通じて、広い知識と教養をはいるともにでいる態度を を応じるとない。 を応じる態度を を応じる態度を 養う。	・先人のものの見方や 感じ方、考え方に親し み、自分自身のものの 見方や感じ方、考え方 を豊かにする読書の意 義と効用について理解 を深めている。	作品や文章などをもと に、自分自身のもの方 見方や感じ方、考え を深めている。 ・古典の作品や文章視 動いら がら がら がら がら がら で が り で の の の の の の の の の の の の の の の の の の	ざまな文化の繋がりに 興味を持ち、登場人物 の言動などから多様な 価値観を読み取ること ができるように、粘り 強く読解に取り組もう としている。
後期	10	※防災週間の実施 に伴って関連する 単元の内容となる よう、漢文作品等 から災害について 考えたり、クラス で話し合ったりす る時間を設ける。	の基礎的な知識を 確認し、古典作品 の特質を知る。 ・物語作品の読解 を通じて幅を はな数を をしていいでは を を と を と を に る を は る と を に る と に る と ら に る と ら と ら と ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら	・先人のものの見方や 感じ方、考え方に親し み、自分自身のものの 見方や感じ方、考え方 を豊かにする読書の意 義と効用について理解 を深めている。	関連する様々な古典の 作品や文章身の考え に、もの見方、 を深めている。 ・古面的評がは、 ・方面的評がは、 ・方面ののののので、 ・方面ののので、 ・方面ののので、 ・方面ののので、 ・たののので、 ・たののので、 ・たのので、 ・たのので、 ・たのので、 ・たのので、 ・たのので、 ・たのので、 ・たのので、 ・たのので、 ・たのので、 ・たのので、 ・たのので、 ・たのので、 ・たので、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ とって ・ ・ とって ・ ・ ・ とって ・ ・ ・ とっ ・ とっ	・古文と現代とのさまでまな文化の繋がりに 関味を持ち、登場人物の言動などから多様な 価値観を読み取ることができるように、 強くことしている。
			の基礎的な知識を 確認し、 の特質を も が も が を を を を を を を を を を を を を を を	めに必要な語句の量を 増すことを通し、語感 を磨き、語彙を豊かに している。 ・先人のものの見方もと に自身の感性を豊かに する読書の意義と効用 について理解を深めて いる。	の考えや目的, 意図を 捉えて内容を解釈する	いるものの見方や感じ方、考え方をとらえ、作者の価値観について理解することができるように、粘り強く読み味わおうとしている。
	11	思想に触れる	の基礎的な知識を	・先人のものの見方や 感じ方、考え方をもと に自身の感性を豊かに する読書の意義と効用 について理解を深めて いる。	・古典作品や文章など に表れているものの見 方や感じ方、考え方を 踏まえ、人間、社会、 自然などに対する自分 の考えを広げたり深め たりしている。	・古典の文章に表れているものの見方や感じ方、考え方をとらえ、作者の価値観について理解することができるように、粘り強く読み味わおうとしている。

	漢詩を読み味わう	構成された韻文の 訓読と、その鑑賞 活動を通じ、想像	増すことを通し、語感 を磨き、語彙を豊かに している。 ・古典の作品や文章の 種類とその特徴につい て理解を深めている。 ・古典の作品や文章 に表れている。 ・古典の作品を変めている。 ・古典の作品を変める ・古典の作品を変める。	・文章の種類を踏まえ、 古典特有のあり、 注意しなどを 展開などを 展開などを でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで、 でで	持ち、作者のものの見 方や感じ方について、 十分に読み味わうこと ができるように、粘り 強く読解に取り組もう としている。
12	物語と漢詩を読み比べる	構成された。 構成された。 れたではない。 れたではないでする。 ない、通かないでする。 ないでするでする。 ないではないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、な	理解を理解を表現というでは、大力を表現というでは、大力を表現である。 て法む量、からやを向しを いらやを向しを や葉辞ついの方の、 一方の、 一方の、 一方の、 一方の、 一方の、 一方の、 一方の、	の考えても開て トラウス である	・漢詩の作者に関いてこれを見に関いてこれを見いたができた。 に関いている に で で で で で で で で で で で で で で で で で で
1	日記に親しむ	情操に触れること で、自身のものの	先人のものの見方や 感じ方、考え方をもと に自身の感性を豊かに する読書の意義と効用 について理解を深めて	古典作品や文章など に表れているものの見 方や感じ方、考え方を 踏まえ、人間、社会、 自然などに対する自分 の考えを広げたり深め たりしている。	古典の文章に表れているものの見方や感じ方、考え方をとらえ、 作者の価値観について理解することができるように、粘り強く読み味わおうとしている。
2	物語を読み解く	の特質を知る。 ・物語作品の読解 を通じて、古典に 関する幅広い知識 と教養を身に付け	・古語の大学を表表を記して、 ・古語を理解して、 ・古語の大学をでは、 ・古語の大学をでは、 ・おいまでは、 ・ないまでは、 ・ないまではないまでは、 ・ないまではないまではないまではないまではないまではないまではないまではないまでは	関連する様なな古生の をなどもものえ をなどもものえ をでからでいる。 ・方でのの方をでは、 をでは、 をでは、 をでは、 をできる。 ・方でのの方ででは、 をできる。 ・方でのの方ででは、 できる。 ・方でのの方ででは、 できる。 ・でも。 ・でも。 ・でも。 ・でも。 ・でも。 ・と。 ・と。 ・と。 ・と。 ・と。 ・と。 ・と。 ・と。 ・と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と	・古文と現代とのさまざまな文化の繋がりに 興味を持ち、登場人物 の言動などから多様な 価値観を読み取ること ができるように、粘り 強く読解に取り組もう としている。
	後期期末考査(単元テストや単元課題で扱わなかった範囲を中心に実施予定。)				

3	和歌に触れ、読み	・古文を読むため	先人のものの見方や	古典作品や文章など	古典の文章に表れて
	味わう	の基礎的な知識を	感じ方、考え方をもと	に表れているものの見	いるものの見方や感じ
		確認し、古典作品	に自身の感性を豊かに	方や感じ方、考え方を	方、考え方をとらえ、
		の特質を知る。	する読書の意義と効用	踏まえ、人間、社会、	作者の価値観について
			について理解を深めて	自然などに対する自分	理解することができる
		・和歌の鑑賞を通	いる。	の考えを広げたり深め	ように、粘り強く読み
		じて古代の人々の		たりしている。	味わおうとしている。
		豊かな情操に触れ			
		ることで、自身の			
		ものの見方や感じ			
		方、考え方を広げ			
		たり深めたりして			
		いる。			
	日記から学ぶ		先人のものの見方や	古典作品や文章など	古典の文章に表れて
			感じ方、考え方をもと	に表れているものの見	いるものの見方や感じ
			に自身の感性を豊かに	方や感じ方、考え方を	方、考え方をとらえ、
		の特質を知る。	する読書の意義と効用	踏まえ、人間、社会、	作者の価値観について
		口割の試細える	について理解を深めて	自然などに対する自分の表さればなりに	理解することができる
		・日記の読解を通じて古代の人々の	いる。	の考えを広げたり深め たりしている。	ように、粘り強く読み味わおうとしている。
		豊かな情操に触れ		1290(いる。	味わわりとしている。
		ることで、自身の			
		ものの見方や感じ			
		方、考え方を広げ			
		たり深めたりして			
		いる。			